

「あまみずグリーンインフラ検討委員会」(第2回)

議事要旨

■日時：令和7年2月4日(火) 13時15分～15時15分

■場所：東京都庁第二本庁舎10階 一般会議室212

検討委員会での主な意見

○先行実施事業・普及啓発・ロードマップ等について

- ・ 今回整備された一部のレインガーデンにて、水位が分かるように石の高さに変化を持たせており、このような工夫がGI施設に関心を高めるために有効。
- ・ 子どもの教育や関心を高めるため、GI施設を遊び場として普及啓発出来ると理想的。
- ・ 補助事業での取組事例をプラットフォームの場にて報告等で共有し、自治体同士や都に対して相談しやすい環境の構築が重要。
- ・ 雨水しみこみアンバサダーの展開について、事業者の社会貢献(CSR)に加え、収益事業に繋がると思わせることで取組姿勢が変わると思う。
- ・ 東京グリーンビズに本検討委員会の結果の反映を見据えていくこと。
⇒ 本項目の報告について全委員が了承した。

○技術面へのアプローチについて

(浸透能力)

- ・ 浸透能力は、目詰まりの影響が大きく適正な維持管理が前提での影響係数0.9である。
- ・ 区部(東部低地)に参考値を示す方向で検討されているのは良い。なお、粘土層等の土質区分に応じた浸透不適地を現地確認して、除外することも重要。
- ・ GI施設に対してモニタリングを実施し、その結果を基に維持管理について評価することが重要。

(整備場所)

- ・ 整備地域に応じて、どのようなGI施設を採用することが望ましいか提示していくべき。
- ・ 再開発事業等での実装を検討される際に、総合設計制度等への適用を見据えて、制度に関係する計画、指針、ガイドライン等を整理し、リスト化していくべき。
- ・ 検討のモデルスケール(面積)を、段階的に拡大して検証を進めるべき。

(GI施設構造)

- ・ 建物や敷地の中で色々なGI施設を組み合わせ、全体としてとらえることが重要。
- ・ GI施設には、多様な作り方や形式があるため、効果の定量評価・汎用化のためには、模式化したもので検討を進めることが重要。
- ・ 従来の浸透施設における充填材は“礫”が一般的であったが、近年、製品開発が進みつつあることを視野に入れることが重要。

(スタートアップ協働プロジェクト)

- ・ GI施設の設置評価手法のマップは、良い取組であるため、ハザードマップ等の既存のものと重ね合わせて可視化を進めて頂きたい。なお、同様の評価手法と競わせ、より良い検討を行って欲しい。

- ・ 浸透能に関する複数の情報をまとめ、検討されているマップにて一目で分かる形にすることが重要。

○政策面のアプローチについて

(アンケート結果)

- ・ 認知度が低い、事業推進に7割が好意的であるため、積極的な施策展開を進めて頂きたい。
- ・ 事業者が費用対効果を感じている理由等を確認し、施策検討に役立て頂きたい。
- ・ レインガーデン等の整備に関心・意欲が高いが、具体的な費用の不透明感等が課題となっている。そのため、モデルケースや助成制度等があると実装拡大が期待できる。その際、オーナーシップを持つてもらうことが持続的な手入れ（適切な管理）につながると思う。
- ・ アンケート調査は、今後も継続的に実施し、取組の成果を見えるようにして頂きたい。

(コンセプトブック)

- ・ 本検討委員会の名称でもある「あまみずグリーンインフラ」という用語を丁寧に説明することが重要。
- ・ 取組を進めている自治体の取組事例等を掲載し、自治体職員が引用や参照をしたくなる冊子に。

(その他)

- ・ 東京グリーンビズのWEBとの連携等を行い、取組成果を効果的にPR頂きたい。

〔※ GI …… 雨水流出抑制に資するグリーンインフラ〕

以上